

学園新聞

第711号

2019年
6月号

東京都東久留米市学園町
1丁目8番15号 〒203-8521
電話 042-422-1078
自由学園出版局

次の100年に向けて

5月11日、記念講堂での合同礼拝にて村山順吉理事長と高橋和也学園長から、次の100年に向けた学校改革指針が発表された。

はじめに、理事長の司会による礼拝があった。その後、高橋和也学園長から、今の時代に合わせた学園の新たな取り組みと方針、また、その背景と内容が報告された。自由学園にとって大きな一歩を歩みだそうとする今後の新しい改革に、生徒の期待は大きい。

なお、同日午後の女子部男子部の保護者会でも同様の発表が行われた。

新たな取り組み

自由学園は2021年に創立100周年を迎えます。次の100年を目指す自由学園の学校改革を進めるために、昨年4月、「1、カリキュラム改革、2、働き方改革、3、一人一人のケアの体制の充実、4、教育の発信」に取り組み、学校改革推進室を設置しました。

そして《キリスト教精神を根底に据えて、常に「一人ひとりを大切にしている学園、よりよい「社会をつくる人」が育ち続ける学園、子どもたちも教職員も「自ら学び続ける人」になる学園》という改革指針を決定しました。その後、各課題に取り組み4つのワーキンググループを組織しました。

高の段階の新しい学びの改革を中心課題として議論を重ねてきました。

そして今後段階的に「共生共学」の学校へ移行することを決定し、理事会・評議員会において承認されました。

目指す「共生共学」の学校は、性別や年齢、国の違いなど、多様な背景を持った人が交わり合うことで視野を広げ、共に生きることを学ぶことができる学校です。

そして同時に、一人ひとりの個性や興味・関心を尊重し、それぞれが主体的に学ぶ力を身につけることができる学校です。

女子部男子部は共に「真の人間教育」という同じ目標に向かいつつ、これまでそれぞれ女子にふさわしい教育、男子にふさわしい教育として、それぞれのよさを持った実践を重ねてきました。

今回の改革は、時代の変化の中で、女子男子の枠を超え、よりよい人間教育の実現を目指し、自由学園らしい、また、生涯を通じた学びの土台作りをさらに進めていくものです。

「共生共学」の

学校づくり

学校改革推進室では昨年1年をかけて、「次の100年に向けて今後進めていく、中

改革の背景

これからの時代は地球全体の問題がみんなの問題になります。しかもその問題は一人では簡単に答えが出せない複雑な問題です。

また違った考えや立場の人が共に暮らす多様化が進む時代になります。ロボットと人間が共存する時代とも言われます。

私は、急激な変化が進むこのような時代にあつて、主体性と協働性、心と頭と体をバランスよく育てる自由学園の教育の価値は、ますます高まるものと確信しています。

しかし同時に、今後さらにこの教育を意義あるものにしていくためには、これまで伝統的に続けてきた取り組みの意味を問い直し、また時代の変化の中で新しい取り組みを進める必要があります。

この数年このような時代の課題に向き合い、国際交流や環境教育などの推進に取り組んできました。

国を超えて様々な人と共に生きる力を、また、人間だけではなく、この地球上の全ての生き物と共に生きる姿勢を身につけてほしいと願うのであります。

そして今後さらに、学校を社会に向かって開き多様性を受け入れ、これからのよりよい社会を創る子どもたちが成長するにふさわしい学校づくりを進めていきます。

段階的移行

すでにこの数年、平和週間の学習、フィンランドの交換留学、デンマークやカンボジ

アの研修旅行など、それぞれ女子部男子部が別々に始めたよい学びの機会を、共に学ぶプログラムとして変更してきました。生徒たちにとって、より学びを深め合う機会となつていきます。

2019年4月から4人の副学園長を置き、学校改革指針に基づき具体的なカリキュラムの検討に入っています。

今年度はまず美術科などで女子部男子部の生徒たちと先生方が共に学ぶ共修授業の試みを始めています。

学業報告会でも男女共修での探求的な取り組みを行いました。次年度以降もこのような共修授業をさらに進めていきます。

今後、生徒と協働して、新しい学びや生活の内容を検討していきます。

今ここで学ぶ一人一人を大切に、これからの世界で本当に力を発揮できる子どもたちが育つ教育を追求していきます。

皆さまのご理解とご協力を
お願いいたします。

学園長 高橋 和也